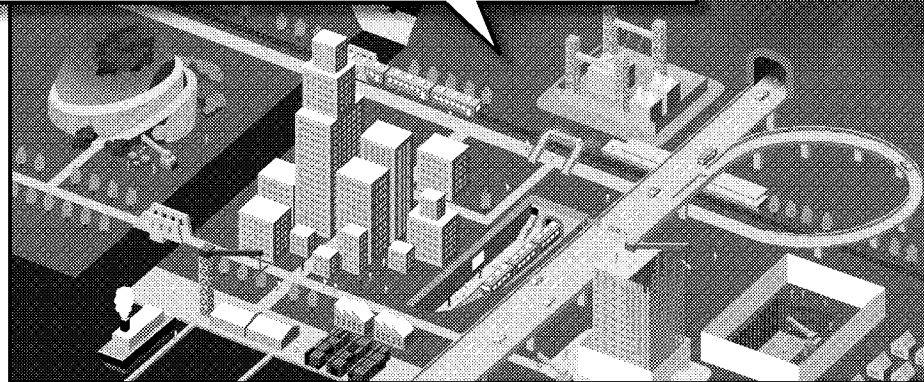


ヒロセだからできること



街で、山で、川で、海で、
社会基盤を整備するあらゆる現場で求められる
より安全な作業環境、より効率的な施工方法、
より環境に配慮した技術。そして、人と自然が
共に生きる快適な社会を創ること。
そんな課題に応えるために
ヒロセだからできることがあります。


www.hirose-net.com

今期増収増益予想も先行き不透明感

建設産業の
現状と課題

建設業界を取り巻く経営環境は厳しく、先行きの不透明感もなかなか払拭できない。ゼネコン大手4社（上場）の2011年3月期連結決算は軒並み前年度比15%超の減収で、資材の値下がりなどで工事採算が改善したこともあり、何とか黒字を確保している状況だ。公共工事の削減が続いたことに加え、民間設備投資も低調なまま推移した。12年3月期はようやく需要が上向くと見て、そろって増収と営業・経常増益を予想。ただ、計画段階では東日本大震災の影響を織り込むことができず、流動的な側面も残している。

落ち込み幅は縮小
二極化現象が目立つ

建設経済研究所が準大手・中堅を含む主要建設会社40社（直近3年間に於ける連結売上高平均の上位）を、対象にまとめた11年度決算分析によると、単体の受注高合計は前年度比2・4%減の9兆2203億円。08、09年度と2年連続で2割減の9兆1300億円超の13社）が同2・1%減の2兆8997億円、中堅（同2000億円未満の22社）が同2・9%減の1兆5338億円。企業規模による傾向の違いはないものの、個別に見ると2ケタ増がある一方で2ケタ減の会社もあり、二極化現象が目立つという。受注シェアは大手が前年度と同じ51・9%、準大手が同0・1%増の31・4%、中堅が同0・1%減の16・6%で大きな変化はなかった。

土木、2年連続2ケタ減
建築は増加に転じる

受注高合計を土木と建築の分野別に見ると、官公需比率の高い土木が同14・8%減の2兆1561億円と2年連続2ケタの大幅減となった半面、前年度まで2割減の2兆8997億円、中堅（同2000億円未満の22社）が同2・9%減の1兆5338億円。企業規模による傾向の違いはないものの、個別に見ると2ケタ増がある一方で2ケタ減の会社もあり、二極化現象が目立つという。受注シェアは大手が前年度と同じ51・9%、準大手が同0・1%増の31・4%、中堅が同0・1%減の16・6%で大きな変化はなかった。

建設経済研究所の主要建設会社決算分析(2010年度)対象の40社

階層	連結売り上げ基準 (3年間平均)	分析対象会社	社数
大手	1兆円超	鹿島建設、清水建設、大成建設、大林組、竹中工務店	5
準大手	2000億円超	長谷工コーポレーション、戸田建設、西松建設、三井住友建設、前田建設工業、五洋建設、フジタ、熊谷組、東急建設、奥村組、安藤建設、ハザマ、東亜建設工業	13
中堅	2000億円未満	鏡高組、浅沼組、福田組、鉄建建設、東洋建設、大豊建設、飛鳥建設、青木あすなろ建設、ピーエス三菱、ナカノブドー建設、東鉄工業、大本組、矢作建設工業、若築建設、松井建設、大和小田急建設、名工建設、不動テトラ、北野建設、大末建設、徳倉建設、植木組	22



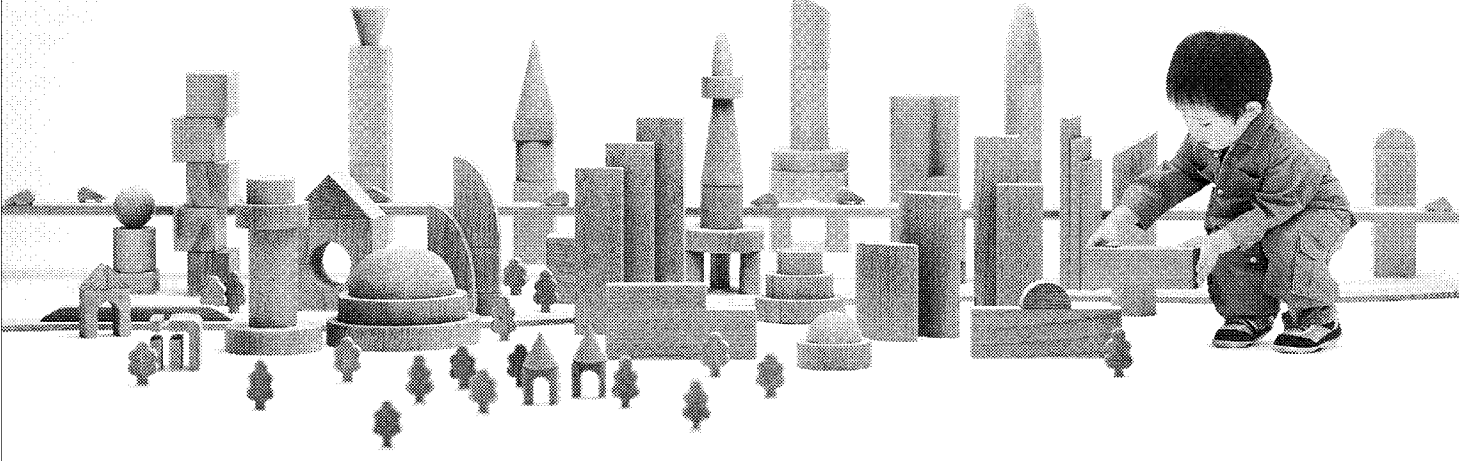
東日本大震災の損失は
40社で約40億円

また、10年度決算で計上された東日本大震災の損失は40社で約40億円。ただし、特別損失以外の一般項目で計上している事例や把握できていないものが多いとみられ、「過小評価」（同）の可能性が高い。さらに投資有価証券評価損が例年になく多くなっており、東京電力の時価減の影響と思われる。震災の復旧需要については国土交通省が6月末、11年度の建設投資見通しを前年度比5・1%増の43兆2200億円と発表し、そのうち復旧にかかわる公共事業推計額を2兆4100億円とした。その上乗せ分を除くと前年度比で微減になるが、民間投資については震災の影響を勘案しておらず、「復興の本格化とともに上振れる可能性はある」（建設統計室）と見ている。

東日本大震災の損失は
40社で約40億円

また、10年度決算で計上された東日本大震災の損失は40社で約40億円。ただし、特別損失以外の一般項目で計上している事例や把握できていないものが多いとみられ、「過小評価」（同）の可能性が高い。さらに投資有価証券評価損が例年になく多くなっており、東京電力の時価減の影響と思われる。震災の復旧需要については国土交通省が6月末、11年度の建設投資見通しを前年度比5・1%増の43兆2200億円と発表し、そのうち復旧にかかわる公共事業推計額を2兆4100億円とした。その上乗せ分を除くと前年度比で微減になるが、民間投資については震災の影響を勘案しておらず、「復興の本格化とともに上振れる可能性はある」（建設統計室）と見ている。

想像を、チカラに。



フランス人の小説家、ジュール・ヴェルヌが残したという言葉があります。「人が想像できることは、必ず人が実現できる」
100年以上も前に彼が空想したロケットや携帯電話が、世界の常識になっている今日。私たちは、「想像」の可能性を否定することはできません。
いま、私たちが建設するひとつひとつが、地球の上でどんな存在なのか問われる時代。これから築かなければいけないのは、人と地球のいい関係です。100年先、200年先、ずっと先の未来まで。私たちは、想像します。たとえ困難に思えることでも、やがて世界の常識になる日が来るために。
人が想像できることは、必ず人が実現できる。鹿島の都市づくりは、100年先を見つめています。

100年をつくる会社
鹿島

時をつくる ところで創る

子どもたちが大人になっていくように、
街も健やかに育っていくと、
そこで暮らすみんなに幸せが広がります。

わたしたち大林組は、
親が子どもたちに愛情を注ぐように、
ここを込めて、建物や街をつくっています。

みんなの未来を、夢のある時間で満たすために。



www.obayashi.co.jp

 大林組
OBAYASHI